

<b>13 茶園の秋整枝遅延による翌一番茶への影響とその対策としての予備整枝法</b>			
<b>【要約】</b> 茶園の秋整枝が11月以降にずれ込むと翌一番茶の萌芽・摘採期は遅延するが、9月中下旬に本整枝より2cm上で予備整枝すると冬芽生育が促され、翌一番茶の萌芽・摘採期は遅延しない。また、摘芽数の減少など翌一番茶減収のリスクも回避できる。			
農業技術振興センター・茶業指導所		<b>【実施期間】</b> 平成28年度～平成30年度	
<b>【部会】</b> 農産	<b>【分野】</b> 戦略的な生産振興	<b>【予算区分】</b> 県単	<b>【成果分類】</b> 指導

### 【背景・ねらい】

近年、茶業経営体の規模拡大や秋番茶需要の増大に伴って製造期間が長期化している。このため、秋整枝（秋番茶摘採）が適期（10月上中旬）に実施できず、1か月程度遅れて実施される事例が増加しており、翌一番茶の萌芽、摘採期の遅延や新芽数の減少などが懸念されている。そこで、秋整枝が遅延した茶園における翌一番茶への悪影響を回避するための予備整枝技術について検討した。

### 【成果の内容・特徴】

- ①秋整枝を11月以降に実施すると、冬芽の生育停止までの期間が短くなるため越冬前の冬芽生育が劣るが、9月にやや浅い位置で予備的に整枝すると冬芽生育が促進される（図1、表1）。
- ②予備整枝位置を本整枝位置から2cm上とすることで、4cm上の場合より越冬前の冬芽生育が促進され、翌一番茶の萌芽・摘採期に遅延はみられない（表1）。
- ③予備整枝は、9月中下旬のいずれの時期に実施しても翌一番茶の萌芽・摘採期の遅延を回避でき、実施時期が早いほど萌芽・摘採期は早まる（表2）。
- ④秋整枝を11月以降に実施すると翌一番茶の摘芽数減少や百芽重低下などがみられるが、予備整枝の実施によってこれらの減収要因は認められず、適期の整枝と同等の百芽重や摘芽数が確保できる。また、摘芽中の全窒素含有量にも影響はなく、品質的にも問題はない（表1、2）。

### 【成果の活用面・留意点】

- ①主要品種‘やぶきた’における成果である。
- ②秋整枝（秋番茶摘採）が11月以降にずれ込むと予想される茶園で利用できる。
- ③予備整枝が早すぎる場合は、母枝となる秋芽の生育が不十分なため冬芽の生育が劣り、萌芽・摘採期が遅延する場合がある。
- ④秋番茶として摘採・製造する場合、予備整枝を実施すると通常の本整枝のみの場合より減収傾向になる。

[具体的データ]

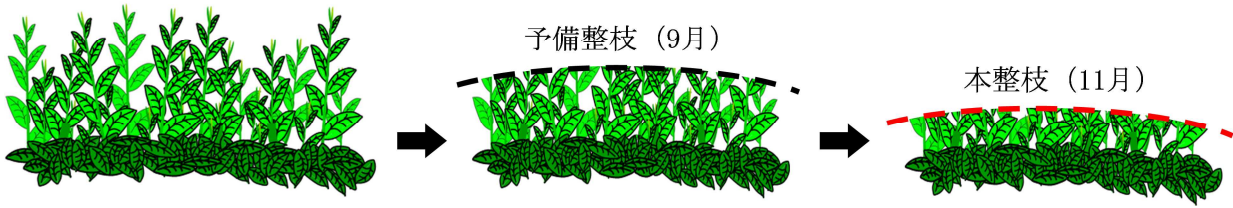


図1 予備整枝技術のイメージ

表1 予備整枝位置が越冬前の冬芽生育と翌一番茶に及ぼす影響 (2016~2017年)

整枝方法	整枝時期				冬芽長 (mm)	翌一番茶					
	予備整枝		本整枝			萌芽 日	摘採 日	百芽重 (g)	摘芽数 (本/m <sup>2</sup> )	摘芽重 (g/m <sup>2</sup> )	摘芽中 全窒素 (% D.B.)
	時期	位置	時期	位置							
予備整枝+本整枝(11月)	9/30	+2cm	11/10	+5cm	6.90 <sup>a</sup>	4/9	5/10	47.1 <sup>a</sup>	1456 <sup>a</sup>	673 <sup>a</sup>	5.2 <sup>a</sup>
予備整枝+本整枝(11月)	9/30	+4cm	11/10	+5cm	5.48 <sup>b</sup>	4/12	5/12	48.0 <sup>a</sup>	1338 <sup>a</sup>	653 <sup>ab</sup>	5.0 <sup>a</sup>
本整枝のみ(適期)	—	—	10/11	+5cm	6.79 <sup>a</sup>	4/9	5/10	41.3 <sup>a</sup>	1425 <sup>a</sup>	575 <sup>ab</sup>	5.3 <sup>a</sup>
本整枝のみ(11月)	—	—	11/10	+5cm	4.02 <sup>c</sup>	4/14	5/12	47.3 <sup>a</sup>	1206 <sup>b</sup>	556 <sup>b</sup>	5.2 <sup>a</sup>

注) 品種: 'やぶきた' 予備整枝位置: 本整枝からの高さ 本整枝位置: 二番茶摘採面からの高さ  
 冬芽長調査: 切断枝条の最上位側芽を計測、2016/12/2調査 翌一番茶調査: 20×20cmの枠内調査  
 異符号間には有意差あり (Tukey HSD検定、5%)

表2 予備整枝時期が越冬前の冬芽生育と翌一番茶に及ぼす影響 (2017~2018年)

整枝方法	整枝時期				冬芽長 (mm)	翌一番茶					
	予備整枝		本整枝			萌芽 日	摘採 日	百芽重 (g)	摘芽数 (本/m <sup>2</sup> )	摘芽重 (g/m <sup>2</sup> )	摘芽中 全窒素 (% D.B.)
	時期	位置	時期	位置							
予備整枝+本整枝(11月)	9/15	+2cm	11/9	+5cm	8.06 <sup>a</sup>	3/30	4/30	45.7 <sup>ab</sup>	1550 <sup>a</sup>	711 <sup>ab</sup>	5.3 <sup>a</sup>
予備整枝+本整枝(11月)	9/20	+2cm	11/9	+5cm	8.70 <sup>a</sup>	3/30	4/30	52.4 <sup>a</sup>	1500 <sup>a</sup>	781 <sup>a</sup>	5.4 <sup>a</sup>
予備整枝+本整枝(11月)	9/25	+2cm	11/9	+5cm	6.84 <sup>b</sup>	4/1	4/30	42.7 <sup>bc</sup>	1515 <sup>a</sup>	648 <sup>ab</sup>	5.5 <sup>a</sup>
予備整枝+本整枝(11月)	9/29	+2cm	11/9	+5cm	6.03 <sup>c</sup>	4/4	5/2	50.4 <sup>a</sup>	1440 <sup>a</sup>	723 <sup>ab</sup>	5.4 <sup>a</sup>
本整枝のみ(適期)	—	—	10/10	+5cm	5.61 <sup>c</sup>	4/4	5/2	45.0 <sup>ab</sup>	1680 <sup>a</sup>	758 <sup>ab</sup>	5.4 <sup>a</sup>
本整枝のみ(11月)	—	—	11/9	+5cm	2.72 <sup>d</sup>	4/13	5/6	35.8 <sup>b</sup>	1630 <sup>a</sup>	584 <sup>b</sup>	5.5 <sup>a</sup>

注) 品種: 'やぶきた' 予備整枝位置: 本整枝からの高さ 本整枝位置: 二番茶摘採面からの高さ  
 冬芽長調査: 切断枝条の最上位側芽を計測、2017/11/27調査 翌一番茶調査: 20×20cmの枠内調査  
 異符号間には有意差あり (Tukey HSD検定、5%)

[その他]

・研究課題名

大課題名: 戦略的な農畜水産物の生産振興に関する研究

中課題名: 野菜等園芸作物や近江の茶の生産振興

小課題名: 安定生産が図れる茶園の樹高管理技術の開発

・研究担当者名: 忠谷浩司 (H28~H30)

・その他特記事項:

平成30年11月の日本茶業学会研究発表会および平成31年2月の茶研究会で発表